

市町村名 宜野座村

沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】

事業名	宜野座村文化センターがらまんホール機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ウ 文化コンテンツ産業の振興		
担当部課名	観光商工課	事業実施年度	平成27 ~ 令和2 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)		
事業内容	宜野座村文化センターがらまんホールの更なる利用促進による文化振興及び観光誘客を図るため、監視モニター、音響、映像等のデジタル機材を設置し、施設の機能強化を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計	
	A. 予算現額	18,900	33,253	0	0	52,153	
	B. 執行済額	18,900	33,253	0	0	52,153	
	うち 交付金充当額	15,120	26,602	0	0	41,722	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	
執行状況の説明	令和元年度の監視モニター、令和2年度のデジタル音響システムについては、計画通り導入することができた。令和3年度に計画していた常設のデジタル照明高度化については、想定以上の経費がかかることから、映像システムまたは仮設のデジタル照明の導入に変更することになっていたが、予算配分が困難だったため実施年度を保留としている。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	○年度	
	デジタルモニターシステム設置	目標	整備完了	供用開始			
		実績	整備完了	供用開始			
	音響システムの高度化	目標		整備完了	供用開始		
		実績		整備完了	供用開始		
照明設備の高度化	目標			整備完了	供用開始		
	実績			整備完了	供用開始		
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	○年度	
	デジタルモニターシステム設置	目標	整備完了				
		実績	整備完了				
	音響システムの高度化	目標		整備完了			
		実績		整備完了			
照明設備の高度化	目標			整備完了	整備完了		
	実績			未実施	未実施		

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 目標/発現年度
	施設の利用者数		目標	-	-	-	-
		実績	18,548人	14,426人	6,027人	8,177人	13,462人
状況説明	<p>【R1年度】 ・デジタルモニターシステム設置後の利用者は、H30年度と比べ減っている。</p> <p>【R2年度】 ・デジタル音響システム導入後においても、利用者は前年度と比べ減少している。</p> <p>【R3・4年度】 ・新型コロナウイルス感染症による人数制限も緩和され、県内の観光イベントも徐々に再開し始めたことにより、当館の利用者数も増となったが、後年度効果発現の目標数値を達成することはできなかった。</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【R1年度】 ・利用者数においてモニター設置後(10月～3月)を昨年と比較すると利用者数が減となっているが、これは2月下旬から3月はコロナの影響で利用者数が激減となったのが理由である。</p> <p>【R2年度】 ・コロナが流行し始めた年であり、国の方針で身体的距離の確保など人数制限や大規模イベントの縮小・延期を検討するようガイドラインが敷かれたため、自主事業および貸しホールの中止も相次ぎ、当館の施設利用者が例年よりも大幅に減少した。</p> <p>【R3・4年度】 ・国民全体に新しい生活様式が浸透し、人数制限も緩和されたことで全国的に音楽コンサートや祭りなども再開され、当館の利用者も増加傾向になってきたが、後年度効果発現の目標数値は達成できなかった。</p>			<p>【R1年度】 ・利用者増に向けて魅力の発信を行うが、コロナのガイドラインの元では利用者の増加はあまり期待できない。</p> <p>【R2年度】 ・引き続き、利用者増に向けて魅力の発信を行うとともに、在宅時間が多くなることを踏まえ、動画配信サイトやSNSを活用した情報発信を行い、コロナ収束後には新たな客層も誘客できるよう取り組んでいく。</p> <p>【R3・4年度】 ・自主事業を徐々に増やしていくとともに、動画による文化の魅力発信も継続して行い、R5年度には後年度効果発現の目標数値を上回る事ができるよう誘客に努める。</p>				
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【R1年度】 ・コロナの影響下ではあるが、収束後を見越し、またR4年度の目標数値に向け、利用者増への工夫を地道に重ねていく。</p> <p>【R2年度】 ・ウィズコロナを踏まえ、人数制限をしながら文化事業のリアル開催とともに動画等での魅力発信を行い、利用者数のキャパが伸ばせない分、動画の再生回数や特設ホームページに掲載している文化芸術記事の閲覧者数を伸ばしていけるよう取り組む。</p> <p>【R3・4年度】 ・徐々にコロナによる制限も緩和されてきているが、動画配信事業を継続し、ロコミだけのマーケットではなく、SNSやあらゆるメディアを活用しながら知名度を向上させていくとともに、新たな層の誘客促進を図っていく。</p>							